



紙のツキノワ

In order to wish the safety of traffic society

Instructor ones own car

Traffic accident news

2013年9月24日午前7時55分ごろ、京都府八幡市の府道で、同市の少年（18）が運転する乗用車が集団登校中の小学校の児童の列に突っ込んだ。1年生の男児（6）が頭などを打って重体のほか、男児と女児計4人が軽傷とみられる。車は一方通行の市道を南進、府道との交差点で左折した際にスリップし、20〜30メートル先の府道北側のガードレールに衝突。はずみで歩道の柵を押し倒して児童の列に突っ込み、民家に衝突して停止した。歩道の柵に衝突した際、車体のはね上がつて児童の列に突っ込んだとの目撃証言もある。



「事故を起こした少年は、教習所でのなを学んだのか？言うまでもなく安全運転とは、正しい操作と交通ルールを守る安全マインドが必要不可欠です。この少年には安全マインドがないがゆえに大きな事故につながった。これは、月の輪教習所に通っている教習生の皆さんにも、他人事ではない。こういった事故を起こさないドライバーをこれから育てていきたいと思っています。重体になった男の子がまた元気に通学できることを切に願います。」

（上田英明指導員のコメントより）

バイク＝オトコ これがオレのスタイル

安原衛 ● 二輪指導員
ヤマハ SR125 ● 日本 / 1997 年式
STYLE



「オーっと登場したルビーカラーの「YAMAHA SR125 ビジネス」。跨っているのはツキノワきつてのファンキー指導員の安原衛さん。

「この『SR125』、教習で使用していた物と同じタイプ（小型二輪使用）で、自慢のドリズラジャケットに合うようにカスタマイズしたけど、どうかな」

「どうやらこのバイク、覚えているだけで人生通算14台目のバイクらしい。」

「こだわったのは、エアクリナーをはずしてバッテリーレスみたいな骨組みだけのスカスカのバイクのイメージに。エアファンネルには蚊も入れないような茶こしを使っているがポイント」

その茶こしは祖母から譲り受けた安原家代々伝わるものみだ。

「SH・GE・K・Iを求めて、今日も明日も湖南地区を中心に安全爆走し、バイクの良さを広めていければ」と



レトロ感あふれるメーター類



これがうわさのエアファンネル茶こし



青空をつんざくマフラー音



絵＝堂本 梨紗 illustration by doumoto,risa



twitter もひっそり始めました。教習に関する相談などのメッセージあれば遠慮なく送って下さい！フォローいただければ教習に関するつぶやき等をこっそりリツイートしちゃうかもです。

@kaminotsukinowa

月の輪 ぶつからない ラボ

2013 11-03



1段階⑤ 交通整理の行われていない交差点の通行方法より

月の輪教習所卒業生を日本一事故・違反の少ない安全なドライバーにするための「アイデアの種」を月の輪随一の指導員が伝授します。

今回のアドバイザーは津舟信嘉指導員です。

身の程を知って 運転を嗜む

あくまで自分は不完全なドライバーである事を念頭に置いている。運転歴30年以上様々な失敗が心のヒダにひっかかっているせいだ。指導員である前に私も人間である。思い込み、勘違いによって当然ミスもする。それが身の程を知ること。

周りの運転に影響を受けない。だからといって、自分のこだわりの安全を強制しない。優先関係がほぼ五分五分の交差点であっても8割（場合によっては10割）相手に進路を譲る。ゆずりあいの精神とは、また一味も二味も違う私の心得。

Instructor column

文＝坂田 謙司 text by sakatakenji

車を持つと行動範囲が広がる。その証拠に、初めて和歌山の回転寿司に行った時のことである。私は減多やたらに外食しない。海に近い店ここなら新鮮だろうと入店。

しかし何せ初めて。初めてというのは何でもそうであるが、勝手がわからぬものである。ううむ、恵子ちゃん、ええい、そんな昔のこととは、どうでもよろしい。

着席したのが回転方向の最後尾。最後尾と再交付はちよつと違う。店員が

座ってものの数分でお茶がないことに気づく。こういう店は当然セルフだろうから自分で何とかしなくてはならない。

目の前にプラスチックのコップを発見、ひとまず手に取り周囲を見渡す。

お湯の出そうなポットを発見。（これだっ！）確信した私は、余裕の表情でポットのボタンを押す。

（でたっ）あたりまいである。

（ふっ、意外と簡単ではないか）

しかし、コップの中をのぞくと妙に薄い。（経費削減か）

飲んでみる。（まずい）

大きく手を上げて見せると店員を呼び寄せた。「キ、君、実は言いにくい事だが、このお茶だ、これは薄すぎる、葉を入れるの忘れてるのではありませんか、君、どう思う？」

「このパック入れるんだよ！」

ケースから取り出したお茶パックを、私めがけて放り投げた。

「そちらでよろしいのですか？」と、さも不思議そうに尋ねるではないか。

「うむ、いいよ」と言っつてすぐ、ベルトの回転方向を見て意味がわかった。

なるほど残り物しか手に入らない最悪の場所ってわけだ。

これはいい勉強をした、その日はひざをぼおんと叩いて納得した。

次に来る事があつたら必ず川上に座るぞと意を固くしたのである。

しかし、今回は癪なのでそのまま着席する。

車を持つと、行動範囲が広がる。